

新得町

上川郡新得町

面積：1067.38km²

人口：7,580人（男性3,701人 女性3,879人）

平成10年1月末現在

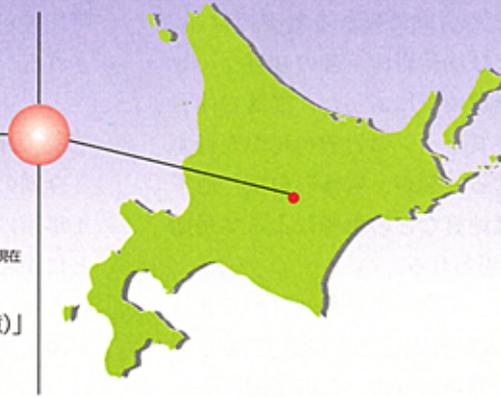
町の木：エゾヤマザクラ

町の花：エゾムラサキツツジ

町名の由来：アイヌ語「シットク・ナイ（山の肩、端の意）」

ホームページ

<http://www.hokkai.or.jp/shintoku>



新得町
企画調整課長
長尾 正

東大雪と日高山脈の出会う場所

石狩と十勝を分ける狩勝峠

新得という地名は、一説によればアイヌ語の「シットク・ナイ（シリエクトオ）」がなまったもので、山の肩・端という意味があるそうです。つまり日高山脈を越える山道の入口、石狩と十勝を分ける狩勝峠の麓という地形的な特徴を由来としているわけです。

このように新得を語る上では欠かせない狩勝峠は、長崎県の雲仙（山岳の部）や日光の華嚴の滝（滝の部）、長野県の上高地（溪谷の部）などと並び称される景勝地として昭和2年に「日本新八景」に選ばれました。ちなみに狩勝峠は平原の部として選ばれており、峠から望む広大な十勝平野の絶景が国内随一とされました。厳密に言えばこの絶景は新狩勝トンネルが開通する前の旧国鉄線の車窓からの眺めだったわけですが、国道38号からの眺めも、雄大さという点で一步も引けをとっていません。

このほか新得町内には東大雪の懐深く抱かれたトムラウシ温泉や、日高山脈の最北端に位置する佐幌岳とその南西麓に位置するサホロスキー場など、風景のスケールの大きさを特徴とする観光ポイントが目白押しとなっています。

冷涼な気候が良質な“そば”を生み出す

“山の肩”に位置する新得町は1年を通じて寒暖の差が大きく、気候が冷涼なため、そばの栽培が盛んに行われています。新得の最初の開拓者が山形県人だったせいもあり、この地でのそば栽培は開拓当時から行われていたといえます。現在は作付面積でこそ全国7位（道内では5位）ですが、乾めん（そば）の出荷量では道内随一を誇っています。また、町内の生産者が第1回全国そば生産優良経営表彰式で最高賞の農林水産大

臣賞を受賞するなど、品質面では日本一のそばを産出しているという自負があります。全国的に人気の高い“新得そば”を出荷しているJA新得では、収穫したそばを冷風を当ててじっくり乾燥させて低温倉庫に保管し、在庫がなくなる直前にこまめにひいて出荷するというほど品質管理に気を配っています。

このように良質なそばを生かすために乾めん製造時には石臼による製粉やサホロ高原の自然水の使用、冷風低温乾燥システムの採用など、そば本来の風味食感を大切にしたい独自の工夫が施されています。毎年10月には収穫した新そばを使った「町民還元そば」が期間限定で販売されており、町民は通常価格の半額ほどで購入できるようになっています。この製品は最上のそば粉を用いた「特撰そば」で、全世帯の80%ほどが利用するほどの人気となっています。自宅でそばを打つ家庭も多く、なかには地下室にそば打ち専用のスペースを設けている人もいて、町民全体がそばには口が肥えていると言えるでしょう。ちなみに町内にある数店のそば店では、田舎そばや更科など店によって異なるそばを楽しめるようになっています。

新得町を訪れる方には昨年6月にオープンしたレストラン付きのそば打ち体験施設「そばの館」をおすすめします。館内には一度に36人がそばの手打ちを体験できる「そば道場」のほか、昔の農機具の展示コーナー





狩勝峠



トムラウシ山と五色ヶ原

があります。そば道場はそば店の店主だった道場長ら8人が指導しており、そば粉8割、小麦粉2割の二八そばづくりを1時間ほど体験した後、試食ができるようになっています。市街地を札幌方面に抜け「そばの館」の入口までの約1kmほどの国道38号沿いには、毎年6月末から7月にかけて白い可憐な花が咲き乱れるそば畑が続き、「そばロード」と呼ばれる景勝地となっています。ここではそば畑を眺め、そばの手打ち体験に汗を流し、できあがったそばに舌鼓を打つという、そば三昧の時を過ごすことができます。このほか国道38号沿いには野沢菜や十勝の特産物を使った漬物の生産・販売所などもあり、新得独自の気候を生かした味覚を堪能することができます。

東大雪の懐深く抱かれた温泉の数々

自然の豊かな新得を語る上で欠かせないものとして、“狩勝峠”と“そば”を挙げましたが、もうひとつ“温

泉”を忘れるわけにはいきません。大規模な旅館が建ち並ぶ一大温泉地があるというわけではありませんが、十勝岳や美瑛岳の東側に位置するトムラウシ周辺にはワイルドな露天風呂が点在し、温泉好きの間に口コミで人気が高まっています。平成5年にリニューアルしたトムラウシ温泉国民宿舎東大雪荘は、新得の市街地からさらに60kmほど東大雪の山懐に入った場所にある一軒宿。日本百名山のひとつに数えられているトムラウシ山の入口ともなっており、登山愛好家の人気も高い温泉です。また宿泊施設はないものの、河原の一角から吹き出した熱湯を利用した露天風呂・ヌブントムラウシ温泉では原生林のただなかで湯みを楽しめます。

これらの温泉まで足を伸ばす時間のない方は、トムラウシ温泉のお湯を専用タンクで毎日輸送している新得駅横にある町営浴場や、町で整備したトムラ登山学校レイク・インに併設した露天風呂などでも、東大雪の大自然の香りを感じることができます。



可憐な花が咲き乱れるソバ畑 (国道38号沿)